

## 目標達成計画

作成日：令和2年 3月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	チームで取り組む介護計画の立案・実践に於いて作成時の生活課題の抽出と支援内容の検討時の全スタッフの課題の抽出力や支援への意識が向上した。今年度は単に介助項目を羅列した介護計画ではなく利用者の意向を取り入れ、利用者の視点に立った具体的な介助計画立案支援への取り組みを図っていききたい。	新しい受け持ち担当の利用者、御家族と面会時等、日頃からの対話や意向の聞き取り等で支援に必要な情報収集に努め信頼関係を築いていく。	①新担当利用者の生活歴や状態について情報把握 ②面会時の近況報告と併せてご家族の意向の確認や利用者の生活へのこだわり(趣味嗜好、エピソード他)等の情報収集に努める。 ③収集した新たな情報はチームで共有できる様に発信する。(口頭申し送りや申し送り簿を活用)	1～3ヶ月
2	26		利用者の意向、家族の意向、利用者のニーズが生活の課題として計画に取り込め自立支援に向けて反映されていく。	①利用者の課題を整理する。 ・利用者個々のできる力、分かる力を全職員が把握する。 ・支障になっている原因、それを解決する最善策をチームで検討する。 ②ADLやQOLの維持、向上等、自立支援に向けての援助内容を具体的にチームで協議し、ケアの統一化を図りながら実践していく。	4～6ヶ月
3	26		実践した支援については状態が変化したり本人、家族の要望に応じて柔軟に見直し、現状に応じた計画の見直し努め、支援の状況などの振り返りができる個別記録の内容の充実化を図りたい。	①日々の様子や対応支援の実践・結果・気づき・工夫を個別記録に記入する習慣をつけていく。 ②介護計画に沿って支援が実践されたか、実践した結果どうであったか等の評価を日常的に記入するスキルや習慣を身につけていく。 ③日々の記録を介護計画見直しに活かしていく。	7～12ヶ月
4	35	施設は地域の地震津波時の緊急避難所に指定されている。災害時にも地域密着型施設としての役割が担え、現況に即した体制を整えていききたい。	定期的に火災・地震・津波を想定した避難訓練を実施しているが、夜間等、職員の限られた人数下での避難対応方法について更に検討し備えていききたい。	①災害時の対策について施設内の他部署との話し合いの場を持つ。 ②各部署ごとに発災時に協力できる事、他部署に協力を仰ぎたい事を抽出し、最善方法、手順等を検討し体制を整備する。	12ヶ月
4	35		スタッフの一人ひとりが日頃より危険から身を護るための適切な判断と迅速な行動をとるための予備知識を身につけ、対策を講じ、災害に備えていききたい。	③区長、班長、民生委員さんをはじめとする地域住民の方と対策等を協議しながら合同の避難訓練等を行い、いざという時に備えた顔の見える関係づくりを図る。 ④災害を想定した訓練を実施し、その都度、問題点を協議し改善策を検討する。 ⑤あらゆる緊急時に於いて適切な判断と迅速な行動をとるための予備知識、対応力を身につけ災害に整えていく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。